

各都道府県教育委員会教育長 殿

国立教育政策研究所長  
素川 富司

学習成果を活用したボランティア活動推進  
事例調査について（依頼）

日頃より国立教育政策研究所の調査研究にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

このたび当研究所社会教育実践研究センターでは、全国体験活動ボランティア活動総合推進センター事業の一環として、「学習成果を活用したボランティア活動推進事例集」を作成するため、都道府県・市区町村におけるボランティア活動推進の取組などについて調査を行うことといたしました。

つきましては、下記により該当事例をご紹介くださるようお願い申し上げます。

記

- 1 調査内容 各個人が日頃の学習成果をボランティア活動等、地域における様々な教育活動の中に活かし、地域課題の解決や地域の活性化を図っている先導的な取組について、特に推進体制等の仕組みについて焦点を当てた事例
- 2 対象及び事例数 都道府県及び市区町村の教育委員会、社会教育施設、体験活動ボランティア活動支援センター等における事例の中から 2～3 事例
- 3 提出方法 教育委員会等に記入いただいた別紙調査票を取りまとめ、下記担当あてメールにより提出
- 4 提出期限 平成 21 年 9 月 25 日（金）

別紙調査票等の電子媒体は、<http://volunteer.nier.go.jp/> からダウンロードできますので、ご活用ください。ダウンロードができない場合は担当までご連絡ください。

担 当：社会教育実践研究センター  
企画課専門職員 山田  
住 所：〒110-0007  
東京都台東区上野公園 12 - 4 3  
T E L：03 - 3823 - 0241  
F A X：03 - 3823 - 3008  
E-mail：shaken1@nier.go.jp

## 学習成果を活用したボランティア活動推進事例調査票

都道府県名		教育委員会等名				
本件照会先	所属					
	職名・氏名	職名		氏名		
	電話				FAX	
	E-mail					

<b>学習の場と活用の場の関係</b>	
	①学習の場と活用の場が一体となって構成されている事例
	②学習の場と活用の場が別に構成されている事例
	③その他( )

1. 事業名( )
-----------

2. 事業の趣旨・目的	
-------------	--

3. 事業の概要
----------

A. 事業の企画・立案の理由	
----------------	--

B. 学習の内容及び特色	
--------------	--

C. 学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法	
---------------------------------	--

D. 推進体制等の仕組み	
--------------	--

4. 成果と課題	
----------	--

## 記入要領

### 学習成果を活用したボランティア活動推進事例調査票

#### 【調査の目的】

今日、地域では各個人が学習した成果をより良く生かし自己実現を図るとともに、その学習した成果を、社会全体で幅広く活用できるようにし、社会全体の教育力を高めていくことが求められています。このことについては、中央教育審議会答申などでも指摘されているところであり、こうした視点に立った取組事例を取りまとめていくことは地域の活性化にも大いに役立つと思われまます。

つきましては、当研究所では、このたび社会全体の教育力の向上に資するため、各個人が日頃の学習成果をボランティア活動等や地域における様々な教育活動の中に活かし、地域課題の解決や地域の活性化を図っている先導的な取組状況などを調査することとしました。

また、こうした学習成果を地域の諸活動につなげていくには、とりわけ関係機関との連携方法や運営の体制、人的配置など推進体制の仕組みが重要であると考えます。このため、今回は特に推進体制等の仕組みについて焦点を当てた事例を最終的に取りまとめる予定にしております。

#### 【調査対象】

都道府県・市区町村の教育委員会事務局及び教育委員会で設置している社会教育施設、ならびに体験活動ボランティア活動支援センター等、支援センターとしての機能を有している当該センター等（以下「支援センター」という。）を調査対象とします。

なお、教育委員会が「支援センター」として位置づけていないNPOセンター等は、管下にある場合でも対象外となります。

また、ボランティア活動の推進について、首長部局で担当している場合は、首長部局も調査対象となります。

平成20年度中( 1 )に実施した「学習成果を活用したボランティア活動推進事例」( 2 )について、1事例ごとに別葉にして作成してください。

なお、記入していただく事例の概要がわかる資料があれば、添付してください。

- 1 平成20年4月1日～平成21年3月31日までとする。
- 2 各個人が学習した成果を、ボランティア活動をはじめ、地域の様々な教育活動などを通じて社会に還元し、社会全体の教育力の向上に貢献している取組事例をいう。

## 【記入方法】

### 「学習の場と活用の場の関係」

～ までに該当するものに を付けてください。また、 のその他に該当する場合は( )の  
中にその内容を記入してください。

#### 1 事業名

当該事例の事業名を記入してください。

#### 2 事業の趣旨・目的

事業の趣旨・目的について簡潔に記入してください。

#### 3 事業の概要

##### A 事業の企画・立案の理由

事業を企画・立案することになった背景について記入してください。

##### B 学習の内容及び特色

学習の内容及び特色について記入してください。

##### C 学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

学習成果を活用したボランティア活動等の内容及びその推進の方法について記入してください。

##### D 推進体制等の仕組み

組織・団体・機関の連携方法，協議会等の設置などの体制づくり，コーディネーターの養成及び配置，学習成果の評価の仕組み，講座等修了後のフォローアップの状況やサポートの仕組みなど工夫した点について記入してください。

#### 4 成果と課題

この事業を実施したことにより得られた成果及び課題について記入してください。

#### 5 その他

今回ご提出下さった事例の中から，今日的な観点から，他のモデルとなりうる特色ある事例を抽出し，事例集として取りまとめたいと考えております。

改めてご執筆いただくこともありますので，予めご了承ください。

## 【学習の場と活用の場の関係】

(参考資料)

学習の場と活用の場が一体となって構成されている事例

ボランティアセミナーなど学習した成果を積極的に活かした社会参加活動の促進の取組を行うなど、学習活動と学習成果の活用の場づくりをセットで工夫している事例

### (例1 ふるさとリーダー塾)

行政機関が主催した長寿大学やコミュニカレッジなどの学習機会に参加した修了生が、その後、そのコミュニカレッジや地域における関連する学習講座などにおいて、運営協力者や講師・助言者として活躍できるように、予め活動場所などを想定しつつ学習内容を設定し学習機会を提供したり、講座修了者が地域活動のリーダーとして参画・活躍できるように積極的に働きかけている事例

### (例2 子育てサポーター養成講座)

家庭教育の充実のため、県レベルなどで子育てサポーター養成講座を実施し、その修了生などを地域の家庭教育学級や相談事業の実施の際に広く活用できるように、養成講座と地域の学級講座などを結ぶ仕組みを工夫している事例

### (例3 まちの先生を育てる市民大学)

市民のニーズに応じた生涯学習講座を開催するため、教育委員会が主体となって地域の大学、社会教育施設、他部局などに広く参加を呼びかけ、市民大学運営協議会を設置した。

講座は「健康」「歴史」「環境」「科学」など多岐にわたるテーマを設定し、市民が自由に選んで講座を受講できるようにし、テーマごとにある一定のレベルをクリアした者に対しては、この市民大学運営協議会が統一的に修了証を発行し、次年度の本講座をはじめ、地域の公民館や他部局などが主催する学級講座などの講師や助言者として広く派遣紹介するなど学習の場と活用をつなぐような体制づくりに努めたり、まちが一体となった学習支援に努めている事例

## 学習の場と活用の場が別に構成されている事例

学習者と受入れ側をつなぐ相談活動やコーディネートシステムなど学習した成果を広く地域の社会教育活動や社会参加活動などに結びつける体制づくりや仕組みづくりなど、学習の成果を他で活用できるように工夫している先導的な取組や特色ある活動を展開している事例

### （例1 学習成果を生かす人材バンクの整備）

地域で開催しているボランティア養成講座やリーダー研修、学級講座などに参加した修了者の学習歴や取得資格、特技などのデータなどを整理登録し、それらを積極的に活用するため、地域に学習成果を生かす人材バンクを整備している。そして地域の社会教育施設と結び、施設が行う学級講座などの際、求めに応じて講師や助言者として紹介派遣を行っている。このように学習した成果などを広く地域社会に還元できるような体制づくりや工夫を行っている事例

### （例2 学習パスポートの工夫）

様々な生涯学習機関で学習した成果を県などの広域レベルで统一的に学習パスポートとして取りまとめ登録するシステムを整備し、ある一定の学習成果に達した者やリーダーに必要な学習科目などを習得した者については、地域で独自の称号などを与えるなど、地域における学級講座の講師やリーダーとして活躍しやすい仕組みを構築している事例

### （例3 学習グループによる社会参加活動の支援）

公民館主催の生涯学習講座で地域の課題を取り上げ、「まちの環境問題を考える」という講座をシリーズで開催した。この講座終了後、受講生を中心に環境美化活動やリサイクル運動を行う市民グループが生まれ講座の成果を活かした取組みを地域で進めている。

この活動の継続と更なる地域への普及を目指して、公民館が中心となり講座修了生からなる市民グループと環境問題やまちづくりに関わる担当行政部局や民間団体等との連携橋渡しを行い、これらが契機となって学習成果を踏まえた連携組織「きれいなまちづくりプロジェクト」が発足した。また、この公民館では日頃から広報誌等による学習グループの紹介や学習成果を活かし社会参加活動の支援など学習と地域をつなぐ取組みを行っている。このように公民館などが中心となって、学習グループ等による地域の社会参加活動を支援するような働きかけなどを行っている事例